

藝大フィルハーモニア管弦楽団楽員（東京藝術大学音楽学部演奏講師）公募要項

1. 募集人員

コンサートマスター 1名

2. 応募資格

プロ・オーケストラのコンサートマスターとしての演奏能力その他必要な能力を有する者

3. 選考方法

【第1次選考】書類および自己推薦文による審査

*第1次選考の可否、および第2次選考のスケジュール等の詳細は、メールにて通知する。

【第2次選考】実演審査

◆日程 2024年4月22日（月）15：00以降 受験者集合

◆会場 東京藝術大学 上野校地（東京都台東区上野公園12-8）音楽学部内

◆課題曲

（1）独奏曲（ピアノ伴奏付き）

以下（A）（B）のうち、いずれか1曲を選択して演奏すること。

（A）W.A.モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第4番 二長調 K.218 第1楽章（カデンツァ付き）

（B）W.A.モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第5番 イ長調 K.219 第1楽章（カデンツァ付き）

*ピアノ伴奏付きで演奏すること。伴奏者は各自同伴のこと。

*楽譜出版社の指定は無しとする。

*カデンツァについて、自作のものは認めない。

*前奏のピアノは、ソロの数小節前から演奏すること。

（2）オーケストラ・スタディ①

（3）J.S.バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ 第1番 ト短調 BWV1001 より
Siciliana, Presto

（4）オーケストラ・スタディ②

*第1次選考（書類および自己推薦文による審査）の合格者に、オーケストラ・スタディ①および②の課題曲の楽譜を送付する。

*（1）と（2）の審査の通過者にのみ、（3）と（4）を課す。

*（1）と（2）の審査の通過者の第2次選考の可否は、メールまたは郵送にて通知する。

【第3次選考】オーケストラ内での演奏による審査

*第2次選考の結果、必要に応じて後日、実施する場合がある。

【試用期間】

*次項「4. 待遇」に示す委嘱期間の最初の6ヶ月間（予定）を試用期間とし、審査対象とする公演等での演奏に対して審査を行う。審査に合格し、本人と大学双方合意の場合は、契約を継続する。

*第3次選考が行われる場合は、本人と大学側で協議の上、試用期間の開始を遅らせる場合がある。

4. 待遇

◆職名 東京藝術大学音楽学部演奏講師（業務委託契約）

◆委嘱期間 2024年6月1日以降で本人と協議し調整する。

*本人と大学双方合意の場合は、年度毎に契約を更新する。上限年齢は60歳。

◆委嘱料（時給単価） 本学規定による（※1）

◆委嘱時間数 年間300～340時間程度（未定）

◆交通費 委嘱料とは別途にて、実費を支給（ただし、本学規定による）

（※1）【委嘱料の例】前年度末時点で、4年制大学卒業後の経過年数が8年6か月未満の者は、1時間あたり3,800円。前述の経過年数が8年6か月以上の者は、1時間あたり5,100円。（2023年度実績、試用期間中も以後も同様。）

（次ページへ続く）

5. 応募方法

下記(1)～(3)を全て郵送にて提出すること。【**※切：2024年3月25日(月) 必着**】

(1) 履歴書(市販の様式)

- ※自筆とする。
- ※メールアドレスと携帯電話番号を必ず記載すること。
- ※写真貼付のこと。

(2) 演奏活動歴(書式自由)

- ※特にオーケストラ分野、室内楽分野における実績等を中心に記載すること。

(3) 自己推薦文(書式自由)

- ※自身の素質・才能・適性、これから目指したいもの・取り組みたいこと等について記載すること。

【送付先】

〒110-8714 東京都台東区上野公園1-2-8
東京藝術大学音楽学部 藝大フィルハーモニア管弦楽団事務局 宛

※封筒に「コンサートマスター 応募書類在中」と朱書すること。

※持参や電子メール等による応募は受付いたしません。

※提出物は返却いたしませんので、あらかじめご了承ください。

6. 問合せ先

東京藝術大学 藝大フィルハーモニア管弦楽団事務局
e-mail : orchestra@ml.geidai.ac.jp

7. その他

- ・応募にかかる費用は、応募者各自の負担とします。
- ・提出書類は、選考事務のみで使用することとし、その他で使用することはありません。
- ・本学は敷地内全面禁煙です。

〈藝大フィルハーモニア管弦楽団プロフィール〉

藝大フィルハーモニア管弦楽団(2016年秋、藝大フィルハーモニアから改称)は東京藝術大学に所属するプロフェッショナル・オーケストラで、年2回の「定期演奏会」、声楽科との「合唱定期」、オペラ研究部との「オペラ定期」、「新卒業生紹介演奏会」のほか、年末恒例の「チャリティーコンサート・メサイア」(朝日新聞厚生文化事業団・朝日新聞社主催)、「台東第九公演」などを行っている。教育面では、器楽科・声楽科学生との協奏曲等の共演および作曲科学生の作品披露を行っている「モーニング・コンサート」、指揮科学生との演奏会・試験・演習など、学生の演奏経験の拡充に資している。前身である東京音楽学校管弦楽団は、我が国初の本格的なオーケストラで、ベートーヴェンの《交響曲第5番「運命」》、《交響曲第9番「合唱付き」》、チャイコフスキーの《交響曲第6番「悲愴」》などに加え、ブルックナーの《交響曲第7番》と《交響曲第9番》を本邦初演し、日本の音楽界の礎石としての活動を果たしてきた。海外では、2017年6月、「日智(チリ)修好120周年」を記念したチリでの公演(4公演)、そして2023年12月、アルゼンチン・コロソ劇場で公演を行い聴衆を魅了した。(公社)日本オーケストラ連盟準会員。

(以上)